

October 4, 1990

Cable No. 1205 from Ambassador Nonoyama Tadayuki (Jordan) to the Minister of Foreign Affairs, 'Prime Minister Kaifu's Meeting With First Deputy Prime Minister Ramadan (1 of 2)'

Citation:

"Cable No. 1205 from Ambassador Nonoyama Tadayuki (Jordan) to the Minister of Foreign Affairs, 'Prime Minister Kaifu's Meeting With First Deputy Prime Minister Ramadan (1 of 2)'", October 4, 1990, Wilson Center Digital Archive, Published online by the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File 2021-0533. Translated by Stephen Mercado. <https://digitalarchive.wilsoncenter.org/document/300970>

Summary:

Part 1 of a 2-part summary of Japanese Prime Minister Kaifu's meeting with Iraqi First Deputy Prime Minister Ramadan following Iraq's invasion of Kuwait. Kaifu insists Ramadan go along with the UN Security Council's resolution calling on the Iraqi government to withdraw its forces and restore the Kuwaiti royal family to power.

Credits:

This document was made possible with support from The Woodrow Wilson International Center for Scholars

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan
Translation - English

七管課緊急処理用

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

① 極秘

電信写

[] [] []

大政事外外儀官
大務務典房
臣秘官官審審長長

ア経外査即 博
大大 察位 代
使使研審準 表

総総対文会厚情オ
括 審察人電在儀警史

外報官	参報際内外
文長	参一二
増移長	参政保对旅外
長	参地中東 参北東西
北米長	参一二保地
中南長	参一二
欧	参西ソ洋 西東
近ア	参一二アア 一二
経長	次総経途博 審経漁国 参経エ国 安ネ二
	参海 参準
経協長	参政国附無 参調技有理
条長	参条協規
国長	参政経人 参軍社
科密	科原
情調長	参情折調 企安

総番号 R199760

主管

月 4日
平成 2年 10月 5日

ジョルダン 発
本省 着

近 2

外務大臣殿

野々山大使

海部総理とラマダン・イラク第一副首相との会談（2の1）

第1205号 極秘・大至急

（分割電報）

4日、8時10分より10時まで、海部総理とラマダン・イラク第一副首相との会談が、ジョルダン王きゆう内国王執務きゆうにて行われたところ、右の概要次の通り（当方出席者、オワグ外審、カククラ駐イラク大使、ワタナベ近ア局長、タケナカ広報参事官、エビハラ近一長、先方ハムドゥーン外務次官、アブドウル・ハミード外務省第一政務局長、ラウイーギ典長他、通訳ミヤモト）。

1. 冒頭、総理より次の通り発言した。

（1）かつて三木特使がイラクを訪ね、当時工業大臣であつた貴副首相とお会いし、それ以来両国間で経済技術協力等の協力関係が存在した。イラン・イラク戦争も終結し、貴国との新しい協力関係を模さくし、8月1日には貴国の経済代表团との間でわが国混合借かんの残余分再開につき有益な話し合いが行われたと聞いていた。然るに突然あのような事態が起り、自分（総理）は非常に深いゆう慮の念を有している。願わくば、この事態がにんたい強い努力により、平和的かつ公正な解決が達成されることを希望している。

（2）今日東西の対立が終わり、情勢が大きく変化し、世界は新しいちつ序を模さくしており、貴副首相をはじめとする貴国指導者は、高い次元に立ち、大きな決断を行つて欲しい。即ち、安保理決議にあるクウェイトよりの即時無条件撤兵、クウェイト正統政府の復帰、全ての外国人の出国について決断を行つて欲しい。現在の局面を展開するため、貴国が大きな決断とゆう気で、問題の平和的かつ公正な解決のための話し合いのいと口を見出すことを希望している。国際社会の殆どが武力により他国をへい合することを容認せず、それは新しい国際ちつ序の破かいにつながるとしている。貴国が高い見地に立つて国際社会の要請に決断を以て応えて欲しい。国際社会の側でも、例えばブッシュ米大統領は国連において、イラクが安保理決議を実施

極秘

電信写

すればいろいろと新しい話し合いを始めることも考えられようとの趣旨を述べていた。貴国には、問題の平和的な解決のため局面の展開を行つて欲しい。

2. これに対して「ラ」は次の通り述べた。

(1) 本日この機会に総理にお会い出来るのはよろこばしいが、このような会談を以前から持てれば一層素ばらしかつたと思う。日本-イラク間の特別な友好関係、8月2日の事件に対し日本の取る立場の重要性にかんがみ、本日の会談は有意義と考えている。日本-イラク関係の進展にこうけんして来た自分（「ラ」）としては、日本の指導者である貴総理に今回の事件の事実関係、原因を十分理解していただきたいと思う。われわれは日本に対しイラクの立場を支持して欲しいとの要請は行わないが、事実に基づいた立場を取つていただきたい。

(2) 日本-イラクの対話は今回の事件、その他全ての問題の解決、日本-イラク関係の強化に資するものであり、その継続を望んでいる。本日は総理に今回の事件のはい景・原因について詳細にお話したいと考えていたが、時間も限られているので、いくつかの点にしぼつてお話したい。

(3) クウエイトは歴史的にイラクの一部であり、具体的にはバスラ州の一部であつた。それが1913年英国の帝国主義的行動により英国に取られた。クウエイトとよばれている地域には、その時点で如何なる統一的政治体制も存在しなかつた。イラクからクウエイトが切り離されたことは、アラブ諸国がその後列強に分割された元きようでもあつた。この英国の行動の目的はイラクを海からとおさげ、イラクの石油資源の半分を獲得することにあつた。クウエイトでは1938年にし問議会がイラクへの復帰を決定したが、当時の首長（ジャビル首長のちち）は議会を解散してしまつた。イラクは1920年に独立して以来、一かんしてクウエイトの国境についてこれを認めず、公式に何回にもわたり、クウエイトはイラクにへい合されるべきであることを内外に表明して来た。ただし王制の時代には、クウエイトをよう護する英国との関係に配慮し、国境の解決には進展を見なかつた。それでも王制時代にも2回、イラクのサイド首相よりクウエイトのイラクへのへい合を英国に正式に申し入れている。即ち、1957、58年に申し入れを行い、何等かの進展がありそうであつたが、58年にイラクで革命が起り、話は中断してしまつた。58年以降、イラクは共和制となり、クウエイトのそう主国であつた英国は、61年にクウエイトに独立の地位を与えた。その後イラクはカーセム首相がクウエイトがバスラ州の一部であると主張した。

電信写

しかし、英国とアラブ諸国の干渉のため、これは実現出来なかつた。68年にバース党の革命が起り、サダム・フセインが指導者となつたが、フセインはそれまでとは異なり、現状と折り合いをつけながら、問題の解決に努力して来た。その後25年間イラクは努力を行つたが、クウェイトの前政権による時間かせぎにあつて、問題を解決出来ずにいた。

(4) 更にクウェイトはイラクから新たな領土を獲得しようと考え、イラン・イラク紛争の間にその領土をイラクの内部に拡張した。とりわけ、ルメイラ油でんについて、クウェイトはイラクの領土に侵攻し、油でんの採くつを始めた。イラクは、公式にこれに抗議したが、クウェイトはイラクがイランとの戦争にいそがしいことを良いことに、これを止めなかつたので、イラクはクウェイトと新たな戦たんを開かざるを得なかつた。こうしてクウェイトが侵略した領土は、元々のクウェイトの地域の4分の1にも上る。

イラン・イラク戦争後、イラクはクウェイトに国境問題の解決をよびかけ、重要な会談が2回開かれたが、クウェイトには問題解決の関心がないことが明らかになつたので、イラクは7月16日、アラブ連盟に問題の重要性についての詳細なシポートを送付した。イラク外相は、様々な記録文けんに基づきイラク、クウェイトの歴史的な関係を説明する書面を、日本を含む各国の外相に発出した。

イラン、イラク紛争は88年に終り、米国及びシオニスト達は、反イラク・キャンペーンを行つた。そのはい景には、イスラエルのイラクの産業基ばんを破かいしようとの意図があり、バゾフトがイラク国内の軍事施設を写真をとるなどして、スパイ活動を行つたので、これを廻けいした。イラクはイスラエルに対し、攻撃されれば攻撃する旨警告したが、ある国が敵対行為をとる国に対し、これに対抗して敵対行為をとるのは不自然であろうか。

(5) イスラエルを始め欧米諸国は反イラク・キャンペーンに熱心である。イラン・イラク紛争のとき、米国はイラン・ゲートに見られるように、イランに大量の武器を供与した。更に、イラクが88年にイランとの戦争を経て軍事的に強国になると、今度は経済的ないん謀をめぐらせてきた。イラクは、戦争で経済がひへいし、債務返済ができなくなり、戦後復こうに資金が必要であるにもかかわらず、米その他の諸国は石油価格を下げ、クウェイト及びア首連はOPECの上限を超えた生産を行つた。これらは、イラクのゆい一の収入源が石油であることを考えれば、大変な問題であつた。イラクはそうした現状はイラクをかいめつさせるとOPECでも訴え、アラブ防衛のためイランと戦つた国民が死んでも良いのかと訴え、これはイラクへ

電信写

の石油を使つた戦争であると主張したが、受け入れられず、8月2日の事件になつた。

(6) クウェイト及びア首連は米と協調して反イラクの経済的いん謀を続け、また、米は、食りよう・こく物の対イラク輸出の削減を早い段階から行なつてきている。米国を中心とする反イラクのいん謀にはクウェイトの指導者もからんでいる。米その他の諸国が今回の事件を世界的な戦争の危険がある所まで拡大してしまつた。8月2日に事件が起きてから、48時間以内に様々な動きがあり、アラブ5か国のミニ・サミットを開いて、アラブのわく内で問題の解決を図ろうとした。ミニ・サミットを8月6日に設定したが、8月6日に米国防長官がサウデイ・アラビアを訪ね、サウデイ・アラビアがミニ・サミットの開催場所を連絡してくるはずになつていたにもかかわらず、このような連絡は行われなかつた。そして米が軍を派遣して、アラブのわく内での解決は不可能になつてしまつた。8月10日のアラブ・サミットの決議で、外国軍の存在が認められ、アラブは外国軍の存在を認める国と、認めない国とに分裂してしまつた。

(7) イラクの立場は非常に明かであり、政治対話は重要と考えているが、アラブの問題に米などの非アラブ諸国がかい入すべきでなく、非アラブ諸国の軍事的いかくのもとでアラブ諸国間の対話を行なうことは出来ない。アラブのことはアラブにまかせてほしく、非アラブの存在は問題の平和的解決に資さない。米国が非常に早く軍を送る形でかい入したが、これは問題のアラブ内での政治的対話による解決への障害となつた。さらに、米国は軍のみならず、経済制裁を早々に行つた。問題はアラブの問題ではなく、国際法・国際ちつ序に関わる問題と言われるが、国際社会はアラブに対し「悪」以外与えたことはない。それにもかかわらず、イラクは国際法を認めているが、国際社会はある国がアラブの国を侵略した例、例えばパレスチナ問題やレバノン問題についての国連の決議の不実行を理由にシリア、イスラエルに制裁を加えていない。パレスチナ問題やレバノン問題に関する決議と今回の安保理決議660といかなる違いがあるのか。パレスチナ問題、レバノン問題について撤兵等を決議しているにもかかわらず、国際社会は、一切制裁を行つておらず、これは米国の反イラク行動の現れである。米国は8月2日の事件がなくても、地域の石油を支配するため、何かを行つたであろう。米国はパレスチナ問題、レバノン問題で何等かの制裁が決議されても、これを守るだろうか。このように、今回の事件と他の問題について国際的な扱いが違ふことにおどろいている。

(8) 現在外国人がこう留者としてイラク国内の家おくや施設にいるが、これは人質ではない。イラクは、今回の反イラクの軍事的行動をとつている国の外国人を主にこう留者としている。これは戦争を防ぐ平和的

電信写

な目的のためである。日本はこう留者釈放についてオーストリアのようにイラクとの対話を行わないのか、いぶかしく思っている。日本はこう留者を放つておくつもりなのか。また、イラクは40億ドル（注：先方発言のまま）の対日債務があるところ、日本はイラクへの経済制裁に加わったが、債務の返かんにきょう味がないのか。特使をイラクに派遣し、こう留者の現状を知り、債務返済の目途をつけるための政治的対話を行おうとしないのか。債務については、イラクは各国に多大の債務があるにもかかわらず、日本には1年以内に全部支払うとしたが、日本はこれを拒否している。日本は、現在の危機が終了してから、改めて債務を返済せよと言つて来るのであろうか。イラクは、全ての国の国民ではなく、反イラクの軍事的行動をとつている国の国民を平和のためのこう留者としているのである。

(9) ミッテラン大統領の提案については、和平への第一歩として評価しており、真げんにフォロー・アップしたい。どんな小さな事でも、平和的解決への努力を評価する。

(10) イラクは、戦争のしかけ人にはならないが、戦争が起これば、米国は当初は成果を上げるかも知れないが、その後は軍事的にも世界情勢においても、大きな損害をこうむるであろう。

(続く)

Secret

Telegraphic Copy

[blacked out]

Number R199760

Primary: Second Middle East Division

October 4, 1990 [time blacked out]

Sent [from] Jordan

October 5, 1990 [time blacked out]

Arrived [at] Ministry

[to] Minister of Foreign Affairs

[from] Ambassador Nonoyama Tadayuki

Prime Minister Kaifu's Meeting With First Deputy Prime Minister Ramadan (1 of 2)

No. 1205 Secret Top Urgent [blacked out]

(Divided Telegram)

On October 4, the meeting between Prime Minister Kaifu and Iraqi First Deputy Prime Minister Ramadan took place from 8:10 to 10:00 in the royal office at the palace in Jordan. Below follows a summary of its main points. (Present from our side were Owada Hisashi, Deputy Minister for Foreign Affairs; Katakura Kunio, Ambassador to Iraq; Watanabe Makoto, Director, Middle Eastern and African Affairs Bureau; Takenaka Shigeo, Director-General for Press and Public Diplomacy; and Ebihara Shin, Director, First Middle East Division. Present from the other side were Nizar Hamdoon, Deputy Foreign Minister; Abdul Hamid, Director, First Political Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs; and Raui [phonetic transliteration, possibly Rawi], Chief of Protocol. Interpreter: Miyamoto Masayuki).

1. At the outset, the Prime Minister said the following:

(1) Earlier, when Miki Takeo visited Iraq as an envoy, I met you, Deputy Prime Minister, when you were at that time the Minister of Industry. Since that time, there has existed between our two countries cooperative relations in economic cooperation, technical cooperation, and other areas. I heard that, with the Iran-Iraq War having ended, in search of new relations of cooperation with your country, fruitful discussions took place on August 1 with an economic delegation from your country on restarting the remaining Japanese mixed credits. However, that situation suddenly occurred. I (the Prime Minister) am deeply, deeply concerned. I hope that, through patient efforts, this affair a peaceful and just settlement of this situation can be reached.

(2) Today, the conflict between East and West has ended, circumstances have greatly changed, and the world is searching for a new order. I would like you, Deputy Prime Minister, to make a great decision from a high perspective. That is to say, I would like you to make the decision, in line with the Security Council resolutions, on the immediate and unconditional withdrawal of troops from Kuwait, restoration of Kuwait's legitimate government, and the departure of all foreigners. I hope that, in order to develop the present situation, we find through your country's great decision and courage the beginning of discussions for a peaceful and just settlement of the issue. Nearly all members of the international community do not accept the annexation by military force of another country and see it leading to the destruction of the new international order. I would like your country, from a high perspective, to

respond decisively to the demands of the international community. As concerns the international community, for example, US President Bush was saying in regard to the United Nations that starting various new discussions would be conceivable if Iraq implemented the Security Council resolutions. I would like your country to take steps to development the situation for the sake of a peaceful settlement of this problem.

2. In reply, Ramadan said the following:

(1) It is a pleasure to be able on this occasion to meet you, Prime Minister, but I think that it would have been even more wonderful had we had such a meeting earlier. In light of the particular relations of friendship between Japan and Iraq and the importance of the position that Japan takes in regard to the incident of August 2, I think that today's meeting is significant. As I (Ramadan) have contributed to the development of relations between Japan and Iraq, I would like you, Prime Minister, the leader of Japan, to fully understand the facts and origin of this incident. I am not asking Japan for its support of Iraq's position, but I would like you to adopt a position based on the facts.

(2) I hope that dialogue between Japan and Iraq will contribute to the settlement of this incident and of all others, to the strengthening of relations between Japan and Iraq, and to their continuation. Today I was thinking of speaking to you, Prime Minister, in detail of the background and origin of this incident. As time is limited however, I would like to limit my talk to several points.

(3) Kuwait was historically part of Iraq. To be specific, it was part of the province of Basra. It was taken by Britain in 1913 in an act of British imperialism. At that time, there existed no unified political system in the region known as Kuwait. The severing of Kuwait from Iraq was even the source of the division of the Arab countries by the great powers. The objectives of this British act was to distance Iraq from the sea and to gain half of Iraq's oil resources. In Kuwait, an advisory council resolved in 1938 for Kuwait's reversion to Iraq, but the sheikh at that time (the father of Sheikh Al-Jaber) dissolved the council. Since Iraq became independent in 1920, we have never recognized Kuwait's borders. Time and time again, we have officially asserted within Iraq and abroad that Kuwait should be annexed by Iraq. In Iraq's era of monarchy, however, we saw no progress in the settlement of borders out of concern for relations with Britain, Kuwait's protector. Even so, even in the era of the monarchy, Iraq's Prime Minister Nuri as-Said twice officially proposed to Britain the annexation of Kuwait to Iraq. That is to say, he made the proposals in 1957 and 1958, and there seemed to be some progress, but the Revolution took place in Iraq in 1958 and the talks were broken off. Iraq became a republic from 1958. Kuwait's suzerain, Britain, granted Kuwait the status of independence in 1961. After that, Prime Minister Qasim asserted that Kuwait was a part of Basra Province.

However, due to interference from Britain and Arab countries, this was not possible. In 1968 the Baathist Revolution took place and Saddam Hussein became the leader. Hussein, unlike those before him, has worked for the settlement of the issue while coming to terms with the present. Iraq for the next 25 years made efforts but was unable to resolve the issue due to the stalling for time of Kuwait's previous regime.

(4) Furthermore, Kuwait, thinking to gain new territory from Iraq, expanded its territory into Iraq during the Iran-Iraq War. In particular, in regard to the Rumaila Oil Field, Kuwait invaded the territory of Iraq and began drilling for oil. Iraq formally protested. Kuwait, however, taking advantage of Iran's engagement in the war with Iran, did not stop. Iraq had to commence new hostilities with Kuwait. The territory that Kuwait invaded came to one quarter of Kuwait's original area.

After the Iran-Iraq War, Iraq called on Kuwait to settle the border issue. Major talks were held twice, but it was clear that Kuwait had no interest in settling the issue. Iraq, therefore, on July 16 sent a detailed report on the importance of the problem to the Arab League. Iraq's Foreign Minister sent a document explaining the historical relationship between Iraq and Kuwait, based on various records and documents, to the foreign ministers of various countries, including that of Japan.

The Iran-Iraq War ended in 1988, but the United States and the Zionists carried out a campaign against Iraq. Behind this was Israel's aim to destroy Iraq's industrial base. Farzad Bazoft conducted espionage, including the photographing within Iraq of military facilities. Iraq executed him. Iraq warned Israel that it would attack if

attacked. Is it unnatural to take hostile action against a country that takes hostile action?

(5) Israel and other Western countries are vehement in their campaign against Iraq. At the time of the conflict between Iran and Iraq, the United States, as apparent in the Irangate scandal, provided Iran with a substantial amount of weapons. Furthermore, when Iraq became a military power by way of the war with Iran, the United States next hatched an economic plot. Iraq, its economy exhausted by the war, became unable to repay its debts. Even though Iraq needed funds for postwar recovery, the United States and other countries lowered the price of oil. Kuwait and the United Arab Emirates engaged in production above the ceiling of the Organization of the Petroleum Exporting Countries (OPEC). Considering that oil is Iraq's sole source of income, these acts were terrible problems. Iraq appealed to OPEC that such an ongoing situation would destroy Iraq, asking whether it was right after Iraqis had died fighting Iran in defense of the Arabs and arguing that this was a war of oil against Iraq. However, Iraq's argument was not accepted. The result was the incident of August 2.

(6) Kuwait and the United Arab Emirates, in concert with the United States, continued the economic plot against Iraq. In addition, the United States engaged from an early stage in reducing food and grain exports to Iraq. Kuwait's leaders were also involved in the plot, with the United States at the center, against Iraq. The United States and other countries have expanded the present incident to the point that there is a risk of a global war. Once the incident of August 2 occurred, there were various movements within a period of 48 hours. We sought to convene a mini-summit of five Arab countries and settle the issue within an Arab framework. We set the mini-summit for August 6, but the United States secretary of defense visited Saudi Arabia on that day. Saudi Arabia was supposed to inform them of the location for the mini-summit but did not do so. The United States then sent troops, and a settlement with an Arab framework became impossible. The presence of foreign troops was recognized in a resolution of the Arab summit on August 10. The Arabs split into countries that recognized the presence of foreign troops and those that did not.

(7) Iraq's position is very clear. We consider political dialogue important, but the United States and other non-Arab countries should not intervene in Arab affairs. Dialogue among the Arab countries cannot take place under military threat from non-Arab countries. We wish to have Arab affairs left to the Arabs. The presence of non-Arabs does not contribute to a peaceful settlement of the issue. The United States quickly intervened by sending troops, but this has become an obstacle to the settlement of the issue by political dialogue among the Arabs. Furthermore, the United States quickly not only sent military but imposed economic sanctions as well. The issue is said not to be an Arab issue but one related to international law and the international order, but the international community has given nothing but "evil" to the Arabs. In spite of this, Iraq recognizes international law, but the international community does not apply sanctions to Syria or Israel for not complying with United Nations resolutions on cases where a certain country has invaded an Arab country, for example the issues of Palestine and Lebanon. Why is there such a difference between resolutions concerning issues of Palestine and Lebanon and the present Security Council Resolution 660? In spite of the passing of resolutions for the withdrawal of troops and such in regard to the issues of Palestine and Lebanon, the international community has imposed no sanctions. This is a manifestation of US anti-Iraq actions. The United States, even in the absence of the incident of August 2, would do something in order to control the region's oil. Even if there were resolutions for some kind of sanctions in the issues of Palestine and Lebanon, would the United States observe them? I am thus astonished by the difference in the international treatment of the present incident and that of other issues.

(8) Foreigners at present are detained in houses and facilities within Iraq, but they are not hostages. Iraq is mainly detaining foreigners of countries that are engaged in the present military actions against Iraq. Their detention is for the peaceful objective of preventing war. I find it suspicious that Japan does not engage in dialogue with Iraq for the release of those detained, as Austria has done. Does Japan intend to leave them where they are? Also, Iraq is in debt to Japan for 4 billion dollars (note: as he said). Japan has joined the economic sanctions against Iraq. Are you not interested in

the debt being repaid? Will you not send an envoy to Iraq, learn the state of those detained, and engage in political dialogue to find a way to repay the debt? In regard to the debt, in spite of Iraq having large debts with various countries, we offered to pay the debt to Japan in its entirety within one year, but Japan has refused this. After the present crisis is over, will Japan again come calling for Iraq to repay its debt? Iraq has detained for the sake of peace not the citizens of every country but those citizens of countries engaged in military actions against Iraq.

(9) In regard to President Mitterand's proposal, we appreciate it as a first step towards peace and would like to seriously follow up on it. No matter how small, we appreciate efforts made towards a peaceful settlement.

(10) Iraq will not be the one to start a war, but if war should occur, the United States may achieve some initial gains. After that, it would suffer great losses both militarily and in world affairs.

(Continued)